

埼玉県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

明日をみつめて

熊谷市立妻沼東中学校 三年 木元 百合香

私達の身のまわりにある蛇口では、ひねれば水が出てきて無料で飲むことができる。このことを当たり前のことであると思わないでもらいたい。この水も、水道管も蛇口も、全て私達の税金でできている。中学生の私達は主に物を購入する際に「消費税」というものを支払う。その他の税金で、今私達が払うことができない分は親が払っている。

最近、私達は公共物や公共施設などの地域の人々とともに利用するものに対する態度があまりよくないように感じる。例えば、学校の近くにある公園では子ども達を使う遊具に落書きがされていたりする。また図書館で借りる本に、コーヒーなどをこぼしたような跡が残っていたり、ひどい場合には破れていたりすることもある。そんなところを見ても公共のものに対する意識の低さは一目瞭然である。

これからは、公共のものに対する意識を高め、私達の税に対する考え方を見直していきたいと思う。私達が使っている教科書も税金からつくられている。つまり、結局は自分で直接買ったようなものだと言える。公共物や公共施設に関しても同じようなことが言えるだろう。その税も私達中学生などは消費税しか払うことができない。その消費税も小遣いから払うわけだから、結果論として親が負担していることになる。そういうところから見ると私達は大人よりも公共物や公共施設に対する意識を高める必要があると思う。だからといって自分で働くようになり、税金を払っているからといって意識が低くなるようでもいけないだろう。「公共」とは皆で利用するということであり、自分一人だけのことではない。ときには自分を抑制することも、これから社会の中に生きる私達に求められていることだろう。「税金」は確かにピンとこないが自分達の身のまわりで、生活に必要なものとして役立っている。だから、公園の水道の蛇口をひねれば綺麗な水がでるということは当たり前なんかではないのだ。

私は私達のいう「当たり前」は必ず何かの上に成り立っているものだと考える。水は私達の税金により綺麗な飲み水に変わり、図書館などの施設もその上で建設される。だから私達は今の自分を見直さなくてはならないのだと思う。税金に対しても、自分自身の公共物への意識に対してもそうだろう。私達は明日をみつめて生きていく。